

(様式第1号)

平成30年10月26日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : リハビリテーションに関する領域
科 目 名 : 生活支援のための運動学
単 位 数 : 2 (生活支援のためのリハビリテーションの知識と合わせて)
認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人岡山県介護福祉士会
団体事務所の所在地 : 〒700-0807
岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
電話 : 086-222-3125
FAX : 086-222-6780
E-mail : okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 会長 安達 悦子 ㊟
申請責任者 : 事務局長 神寶 誠子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年10月26日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
同 Tel・Fax	Tel : (086)-(222)-(3125)
メールアドレス	Fax : (086)-(222)-(6780) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 医療に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 疾患・障害等がある人への生活支援・連携Ⅱ (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のための運動学	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	・介護福祉士として生活支援に必要な運動生理を理解し、支援に活用させる	
到達目標	<p>・筋・骨・関節など運動器系や脳・脊髄・末梢神経など神経系の解剖・生理機能を理解し、支援に活用できる。</p> <p>・関節可動域や関節運動などヒトの基本的な動きについて理解し、支援に活用できる。</p> <p>・日常の諸動作の中で、身体各部の相互関係を理解し、支援に活用できる。</p>	
研修内容 (研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○身体表面のランドマークの名称</p> <p>○筋、骨、関節、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理</p> <p>○内部器官の運動時の生理</p> <p>○身体運動の基本知識（関節可動域、筋力、運動の方向、動作）</p> <p>○運動の基本的な力学的な考え方（モーメントなど）</p> <p>○摂食嚥下における解剖・運動生理</p>	<p>○事前課題①（3時間）</p> <p>事前に配布された身体表面のランドマークの名称、筋、骨、関節、神経、解剖生理、運動、摂取と代謝、モーメント、に関する資料をよく読み、人体の構造と機能について自己学習をする。この課題を行うことによって、人体に関する用語と基礎的な機能の理解を深めることができ、講義内容を容易に把握できるようにする。</p> <p>○事前学習②（3時間）</p> <p>業務中に感じる移乗動作の難しさについて、自身が感じる難しさの原因とその難しさを解決するために必要なポイントを具体的にまとめて提出する。この課題を行うことによって、移乗動作場面での問題解決に際して、運動学的に考えることで解決できる可能性があることを意識する。</p> <p>以下のように事前課題を変更しています。</p> <p>○事前課題（4時間）</p> <p>参考図書（学生のためのリハビリテーション医学概論）と講師が補助資料をもとに作成した資料で骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖や生理、内部器官の運動時の生理、身体運動の基本知識、摂食嚥下における解剖・運動生理について自己学習をする。これらの学習を行うことによって集合研修で行う講義内容が理解しやすくなる。</p> <p>○身体表面のランドマークの名称、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理及び内部器官の運動時の生理について学ぶ。（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>資料を見ながら身体各部の名称を確認する。同時に解剖学、生理学的な基本知識を学ぶ。</p> <p>○身体運動の基本知識（関節可動域、筋力、運動の方向、動作）および運動の基本的な力学的な考え方（モーメントなど）について学ぶ。（2時間）</p> <p>【講義】</p>

	<p>介助動作を安全に行うために必要な運動学を基本的な力学から学ぶ。</p> <p>○摂食嚥下における解剖・運動生理（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>介護に必要となる摂食・嚥下障害について学ぶ、合わせて、呼吸機能や運動代謝についても学ぶ。</p> <p>以下のように集合研修（講義）を変更しています。</p> <p>○身体表面のランドマークの名称（2時間）</p> <p>ランドマークの名称を実際に触診し、関節可動域の測定も実際に行なう。</p> <p>○運動の基本的な力学的考え方（モーメントなど）</p> <p>支持基底面と重心の位置によって身体の安定性が変化することを実技を通して確認する。この実技を行うことで、この後の学習に繋がる知識となっていく。</p>
研修方法	<p>■集合研修</p> <p>■課題学習</p> <hr/> <p>○集合研修として講義を行う</p> <p>○課題学習として、①資料を読み自己学習、②レポートを課す。評価は担当講師が行う。 参考図書（資料）学生のためのリハビリテーション医学概論</p>
研修時間	課題学習 10 時間⇒4 時間 集合研修⇒6 時間
修了要件	<p>○全課程の出席を修了要件とする。公共交通機関の影響などやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。（レポート課題なし）やむを得ない事情による30分以内の遅刻・欠席があった場合、当該科目の講師の資料またはテキストによるレポート課題を提出する。</p> <p>○修了評価として行う筆記試験（50問程度）において、A～C評価（100点満点中60点以上）であること。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
講師要件 （講師の 選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者
(2)受講者について	
受講対象 （受講要件）	単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。
修了評価	筆記試験（50問程度）を行う。100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）で修了とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師 の配置基 準）	30名（講師1名）
開催場所 （都道府 県）	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2019年12月4日
	②
	③
開催場所 (会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師 (演習・課題・評価) : 藤本 宗平 氏
	【現在の所属】
	一般財団法人共愛会理事長 芳野病院医師 老人保健施設 虹 施設長 他… 苫田郡医師会副会長、岡山県病院協会常務執行役、岡山県医師会代議員、 岡山県老人保健施設協会 人生の最終段階の医療介護を考える会 担当理事、 鏡野町在宅医療・介護連携事業推進協議会システム部長、岡山県地域包括ケアシステム学会理事、岡山県福祉・介護人材確保対策推進協議会委員、 ダウン症児親の会「あひるの会」会長
	【略歴】
	昭和 51 年 3 月 昭和大学医学部卒業 昭和 51 年 4 月 昭和大学外科学教室入局 昭和 53 年 4 月 神奈川県立こども医療センター勤務 昭和 54 年 4 月 昭和大学外科学教室帰局 昭和 59 年 9 月 川崎医科大学附属川崎病院(岡山市) 勤務 昭和 61 年 4 月 財団法人共愛会芳野病院勤務(外科医長) 昭和 63 年 6 月 芳野病院 院長就任 平成 14 年 4 月 財団法人共愛会 理事長就任 平成 18 年 4 月 認知症に対するリハビリテーション研修 修了 平成 25 年 5 月 岡山県老人保健施設協会会長就任 平成 25 年 12 月 認知症サポート医養成研修修了 平成 26 年 12 月 認知症対応型サービス事業開設者研修 平成 27 年 7 月 認知症対策連携会議委員 平成 29 年 5 月 岡山県老人保健施設協会会長退任 平成 29 年 11 月 「平成 29 年度人生の最終段階における医療体制整備事業 患者の意向を尊重した意思決定のための

	<p>研修会」受講</p> <p>平成 30 年 7 月 「患者の意向を尊重した意思決定のための指導者研修」受講</p> <p>平成 30 年 9 月 「患者の意向を尊重した意思決定のための指導者研修」 ファシリテーターとして参加</p> <p>【講師経験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 6 年、老人保健施設虹、訪問看護ステーションあおぞらの開設以後、津山英田圏域において新規開設の介護保険事業所の職員教育を行う。 ・美咲町、鏡野町の介護福祉専門職を対象にした研修会（認知症、ポリファーマシー、アドバンス・ケア・プランニング等）講師。 ・老人保健施設職員を対象にした研修会講師。 ・中国地区介護老人保健施設大会の企画、運営（大会会長） ・学校教員、保育所職員等を対象にした研修会（ダウン症、発達障害等）講師。
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(岡山県介護福祉士会正副委員長・事務局員) 10 名内常勤 2 名
研修の企画運営に関する諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる
研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ■紙媒体及びデータによる台帳管理 ■外付けディスクにバックアップデータを保管する ■データ保存期間は 10 年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。 ■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 リハビリテーションに関する領域

科目名 生活支援のための運動学

集合研修の総時間数 6時間

課題学習を4時間とする

1日目(6時間)

時間	テーマ	展開内容(講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:15~10:45	身体表面のランドマークの名称および位置を理解し、関節の動く方向と可動域を確認する。	科目の説明と今日の講義の流れを説明する。 課題学習とした、身体運動の基本的知識の中で学ぶ、運動の方向性と関節可動域について復習しながら、理学療法士が臨床で行う評価、特に関節可動域測定、徒手筋力検査について説明をする。 確認しやすい身体表面のランドマークの触診。基本肢位と解剖学的肢位の相違点。身体を評価する際に基準となる面と軸の理解。身体の運動によって起こる外転、内転、外旋、内旋、回内、回外などの動きと用語を説明する。その後2~3人のペアで衣服を着用していても確認しやすいランドマーク(肩甲骨、肩関節、股関節など)少なくとも12ヶ所を確認)基本肢位、運動面、運動軸を確認。さらに講師が配る関節可動域評価表を参考にしながら関節可動域測定を実際に行うことで、各関節の運動方向、可動領域を確認する。徒手筋力検	関節可動域測定器(ゴニオメーター)を用意する。 関節可動域測定評価表を用意する。 徒手筋力検査用紙を用意する。 触診や関節可動域の実技では、可能な限り同性同士での実技とする。しかし、筋肉や脂肪の状態から生じる性差は同性同士では理解しにくい部分があるために、講師の指導のもと同性以外での実技を行うことがある。	羽原史恭 (補助講師)

10:45～10:55		<p>査は受講生は実際には行わないが、講師がデモンストラーションを行い、評価用紙の説明を行う。これらの実技を行なった後で、具体的な身体の状態、例えばあぐら座位における下肢は外旋位であること、顔を洗うためには前腕が回外方向に動いていくことを説明し、仮に下肢に外旋方向への関節可動域障害が生じれば、日常生活では、あぐら座位が取れないことを理解する。</p>	<p>参考図書 学生のためのリハビリテーション医学概論 第2版、医歯薬出版 2015 講師の補助資料として リハビリテーションビジュアルブック第2版2016を参考に講師が別資料を用意し、学習の補足とする。</p>	
10:55 12:25	<p>休憩 運動の基本的な力学的考え方（モーメントなど）</p>	<p>身体が動くこと、またその身体を介助する際に起こる対象者、また介助者地震の身体の変化を理解する。基本動作へと続く、座位、立位、臥位の特徴、そして起き上がり、立ち上がり、歩行の特徴を説明する。それぞれの姿勢や運動によって重心の変化が起こり、身体は柔軟にその変化に対応していることを理解する。また人の動きは支持基底面がその基礎に成り立っていることを理解する。発達的には腹臥位や背臥位という地面に接して低い重心と広い支持面から、成長し立位になることで重心は高くなり、支持基底面が狭く</p>	<p>講師の補助資料として 標準理学療法学・作業療法学 運動学 2012を参考に講師が別資料を用意し、学習の補足とする。</p>	<p>羽原史恭</p>

		なっていくことを理解する。また身体が動く際にはモ ーメントの理解が必要になってくる。全体的な科目の 理解を深めるために受講生2～3人のグループでの実 技を行う。		
12:25 ～13:15	休憩			
13:15 14:45	～ 運動の基本的な力学的 考え方（モーメントな ど）	昼食の休憩を挟んで、続いて科目の講義を行う。 支持基底面が広いことで、介助者の身体が安定し、安 全に介助できることにも触れる。 最後に本日の講義の振り返り、次回の講義の予定につ いて説明を行う。	講師の補助資料として 標準理学療法学・作業療 法学 運動学 2012 を参考に講師が別資料を 用意し、学習の補足とす る。	羽原史恭